

# 伊勢市環境基本計画 実施概要

## == 取り巻く環境と事業実施概要 ==

本資料は、平成 22 年 3 月に策定した「伊勢市環境基本計画」について、計画策定後の本市の環境状況の変化や計画に基づき実施している事業等の概要についてまとめたものです。

平成 25 年 11 月



# 1. 地球環境に配慮した、資源やエネルギーが大切にされる、

## 循環型社会のまち

### ■■ 概 況 ■■■■■

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災や東京電力福島第一発電所の事故及び電力供給不足により、エネルギーが生活や経済活動等と密接な関係にあり、自らの問題として考え、取り組まなければならないことを強く認識する契機となりました。

このような状況の中、平成 24 年 7 月には「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」が施行され、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入が全国的に進展しており、伊勢市内においても、三交不動産株式会社による「伊勢二見メガソーラー光の街」(出力規模:約 5.2MW 年間発電量:約 6,000MWH/年 約 1,700 世帯の年間使用電力量)のほか、50KW未満の低圧発電事業と思われる施設も散見され、また、住宅等における導入も増えています。

他方、国においては、将来の電力供給のあり方が定まらず、2020 年までの温室効果ガス削減目標を、2005 年比 3.8%減(1990 年比 3.1%増)とする厳しい見通しが示されています。

3Rの推進については、平成 22 年 3 月に策定した「伊勢市ごみ処理基本計画」をもとに廃棄物の減量や資源化に取り組んできましたが、数年来減少傾向にあった排出量が平成 23 年度に増量に転じるなど、目標の達成が難しい状況となっています。

このような状況を受け、平成 24 年度には 3 年ぶりに家庭から出された燃えるごみの組成調査を実施しました。

その結果、多くの資源物混入が確認されたことから、全 173 自治会を対象としてごみの減量及び資源化に関する啓発活動として説明会などを開催し、市民の意識喚起を図っているところです。

## (1) 計画的な推進体制の確立

### 《重点事業》

- ・伊勢市地球温暖化防止推進計画の策定

### 《《 取組み状況 》》

平成 23 年 5 月、「伊勢市の“エネルギーの地産地消”についての具体的取組み等を含めた『伊勢市地球温暖化防止実行計画(区域施策編)』について、伊勢市環境審議会に諮問し、平成 24 年 11 月に答申をいただき、平成 24 年 12 月に「伊勢市地球温暖化防止実行計画」を策定しました。

計画においては、2020 年における目標として、当時の国の目標「1990 年比で 25%削減」及び三重県の目標「2005 年比で 20%削減」を踏まえ、「2007 年度比で 30%削減」を掲げ、取組みを進めることとしています。

## (2) 資源・エネルギーの有効利用

### 《重点事業》

- ・家庭用太陽光発電機器設置の推進
- ・天ぷら油のバイオディーゼル燃料としての再利用
- ・生ごみ等のバイオガス利用の検討

### 《《 取組み状況 》》

#### 太陽光発電

市では、住宅等における太陽光発電設備の設置促進を目的とした補助金を交付しています。交付実績については、平成 13 年度から平成 21 年度までの 9 年間で 398 件、平成 22 年度から平成 24 年度までの 3 年間で 833 件、合計で 1,231 件となっており、平成 25 年度においても 420 件分の予算により募集を行っています。

また、公共施設においては、平成 22 年度以降に 9 施設(約 180KW)を整備し、平成 24 年度末時点で、小中学校を中心に 21 施設、約 380KWを導入しているほか、公園・道路における照明等にも導入を行っています。

== 一般家庭における太陽光発電機器設置件数（推計） ==

（単位：件）

|      | H20 | H21 | H22 | H23   | H24   | H25     | H26<br>目標値 |
|------|-----|-----|-----|-------|-------|---------|------------|
| 設置件数 | 504 | 80  | 80  | 397   | 356   | (480)   | 1,000      |
| 累計件数 |     | 584 | 664 | 1,061 | 1,417 | (1,897) |            |

H20年度値は、新エネルギー財団及び市の調査に基づく推計値

各年度の設置件数は、市補助金の交付件数

H25年度値は、市補助金の募集件数（予算枠）で、前年度からの繰越分を含む

== 平成22年度以降の太陽光発電設備導入公共施設 ==

H22 厚生中学校 20K W、五十鈴中学校 20K W、御園中学校 20K W  
中島小学校 17.5K W、明倫小学校 20K W、厚生小学校 20K W  
佐八小学校 20K W

H23 しごうこども園 10K W

H24 伊勢フットボールヴィレッジ 30K W

電気自動車等

平成24年8月、電気自動車等を活用した移動手段の新たな使い方を検討し、取組を進めることで「低炭素で豊かに暮らせる伊勢」を創造することを目的として、「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」を三重県の支援を受けて設立しました。

協議会では、平成25年3月に行動計画「おかげさま Action! ～住むひと、来たひと～」を策定し、参画する事業者等と連携し取組を進めることとしています。

平成25年度においては、NTN株式会社からの超小型モビリティ5台の貸与、ええやんか！マイバック（レジ袋有料化）検討会からのコムス（トヨタ車体の超小型モビリティ）4台の寄贈等を受け、電気自動車等が活用されている姿を多くの市民、観光客に見ていただけるよう取組を進めているほか、三重交通株式会社における大型の電気自動車バスの導入（平成26年春に運行開始予定）、充電施設のピクトグラム等のデザイン公募・選定、充電施設の整備指針づくりや超小型モビリティを活用した観光の検討などを行っています。

また、市では、電気自動車2台の導入（平成25年8月）、充電施設の整備（平成25年度実施中）を行い、環境フェアや伊勢楽市等において、非常時における電源としての電気自動車の活用などのPR活動を実施しています。

### 資源・エネルギー循環利用

市では「生ごみの資源化(バイオガス化)」事業化の是非等について検討を行ってきましたが、平成24年11月「現状においては、資源化施設の建設の他、現焼却施設においても多額の改修費を要することから事業化の好期とは言えず、実施は困難」と現時点での事業化の是非について判断するとともに、「今後のごみ処理においては、資源化の推進及び処理施設の高効率化が欠かせず、また、平成21,22年度に実施した生ごみの分別収集実験における住民の高い協力度からも、生ごみの資源化(バイオマス化)については、重要な検討事項であり有効な選択肢のひとつ」と位置付けました。

また、天ぷら油のバイオディーゼル燃料及び公衆浴場組合の助燃材としての再利用のため、天ぷら油の回収を行っており、平成21年度の21,978リットルが、平成24年度には30,165リットルと約1.5倍に回収量が増加していますが前年度から減少しており、平成26年度の目標値82,000リットルとは大きな差があります。

== 天ぷら油の分別回収量 ==

(単位:ℓ)

|       | H20    | H21    | H22    | H23    | H24    | H26<br>目標値 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|------------|
| 年間回収量 | 11,840 | 21,978 | 26,926 | 31,643 | 30,165 | 82,000     |

### 省エネルギー

市では、公共施設において、LED照明の導入や窓へのフィルム貼付、ボイラー改修等の省エネ改修を、施設の状況に応じて順次進めているほか、平成23年度からは、60を超える公共施設において、夏季のグリーンカーテンの設置に取り組むなど、一事業者としての省エネに取り組んでいます。

また、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)との連携による市民向けのエコドライブ講習会の開催(平成23年度から開始、年2回)や、三重県地球温暖化防止活動推進センターとの連携により、環境フェアにおいて省エネ診断を実施する等、専門機関との連携による啓発活動を実施しています。

### (3) 3Rの推進

#### 《重点事業》

- ・ごみの収集方法等の統一

#### 《《 取組み状況 》》

##### レジ袋有料化の取組み及び収益金の活用

「レジ袋大幅削減のためのマイバッグ持参運動」(平成19年開始)以降、スーパーマーケットなどでレジ袋の受け取りを辞退する方は、来客者の90%を超えており、購入者の高い意識がうかがえます。

また、レジ袋の有料化により事業者が得た収益金は「ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会」に収納のうえ、環境活動を行う団体などへの助成金として交付、または、電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会へコムス(トヨタ車体の超小型モビリティ)4台及び活用により、市内の環境改善、意識向上等に貢献しています。

##### ごみ収集方法等の統一

平成21年7月に策定した「ごみの収集方法等の統一に関する基本方針」により、平成17年の市町村合併前から旧市町村毎に行われていたごみの収集方法などを、市民の利便性や負担の公平性、収集の効率性などの観点から市全域において統一することを目標として制度設計や地域での説明会に取り組んできました。

##### 燃えるごみの集積化

各戸別において収集を行っていた燃えるごみを集積所にて収集することとし、自治会などを対象に集積所の設置を依頼し、平成23年度には概ね目標の100%を達成しました。

##### 資源ステーションの集約

近隣に資源ステーションが散在する地域においては、現状に比べ、より排出された資源物の適正な管理が図られるよう、自治会などの協力を得ながら物置の設置等を進めました。

##### ごみ分別品目の整理

二見町及び小俣町地域において行われていたアルミ・スチール缶の別回収を、市内全域において実施している缶・金属類に統合しました。

##### 品目別排出・回収頻度

旧市町村で異なった資源物の排出・回収頻度を、市全域において統一しました。

##### 廃棄物投棄場の集約

平成22年度末をもって二見廃棄物投棄場と御園廃棄物投棄場を廃止し、平成23年度から伊勢廃棄物投棄場及び小俣廃棄物投棄場のみを利用することとしました。

== 燃えるごみの集積化の状況 ==

(単位：%)

|      | H20  | H21  | H22  | H23  | H24  | H26<br>目標値 |
|------|------|------|------|------|------|------------|
| 集積化率 | 58.2 | 58.7 | 95.9 | 99.7 | 99.8 | 100        |

啓発活動

自治会からの推薦により、廃棄物減量等推進員を委嘱し、ごみの減量、資源化の促進について、地域での啓発などに取り組んでいます。

また、再生資源回収事業奨励金として、自治会などの団体が紙類や金属缶類を回収、資源化する活動を支援することで、適正な排出を啓発しています。

さらに、自治会や小学校などに出向いてごみの減量や資源化について説明会などを開催し、小中学生から募集したポスター等により市民に直接、啓発しています。

## 2. 豊かな自然が守られた、水と緑と人が共生する魅力あるまち

### ■■ 概 況 ■■■■■

市内を流れる清流宮川は、国土交通省による一級河川の水質ランキングにおいて、平成18年から平成23年まで6年連続で水質1位となっていました。平成24年においては、BOD値が0.5mg/ℓ以上という結果となっています。

また、三重県の河川水質ランキングにおいて、平成10年度から平成20年度まで連続して県内ワースト1位であった勢田川においては、平成21年度にワースト1位を返上することができましたが、平成24年度においては、前年度に比べてBOD値が悪化し、再びワースト1位となっています。

平成16年の台風21号、平成23年の台風12号等により、県内でも大きな水害、土砂災害が発生しており、森林や農地等が公益的機能を発揮できるような管理の必要があります。

森林においては、美しい景観を形成するとともに適正に管理された神宮林がある一方で、間伐を行うも搬出が行われていないなど、課題があります。また、農地については、耕作放棄地の解消、担い手の確保が課題となっていますが、国の農業政策、TPP交渉等の環境変化に対応していく必要があります。

### == 主な河川水質の推移 ==

(単位：mg/ℓ)

|               |          | H20        | H21        | H22        | H23        | H24        |
|---------------|----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 宮川<br>(度会橋)   | BOD75%値  | <0.5       | <0.5       | <0.5       | 0.6        | 0.7        |
|               | 県内ランキング* | 1位         | 1位         | 1位         | 11位        | 9位         |
| 勢田川<br>(勢田大橋) | BOD75%値  | 5.0        | 2.6        | 3.7        | 3.7        | 6.1        |
|               | 県内ランキング* | ワースト<br>1位 | ワースト<br>6位 | ワースト<br>4位 | ワースト<br>4位 | ワースト<br>1位 |

出典：三重県発行「環境白書」

県内ランキングは、三重県内63地点における順位

## (1) 自然環境の保全

### 《重点事業》

- ・生活排水対策ハード整備の推進

### 《《 取組み状況 》》

#### 自然環境の保全

水産資源の保護・培養の他、水質浄化などの役割を持つ干潟等において、地区漁業者が中心となる活動組織が行う耕うん、稚貝の沈着促進等の保全に係る活動を支援しました。

また、河川整備においては、環境に配慮した護岸ブロックを使用し、植生の復元に努めています。

#### 生活排水対策

下水道整備について、平成 23 年度から平成 27 年度を計画期間とする第 3 期事業計画に基づき、整備を進めています。

合併処理浄化槽の設置について、年 400 件以上、補助金を交付し普及を図っています。なお、三重県による新築家屋への補助金が平成 25 年度に減額、平成 26 年度に廃止されることとなりましたが、市の補助金については、下水道区域との公平性等から新築家屋についても継続して補助することとしたほか、平成 25 年度からは、単独浄化槽や汲み取りからの切り替えに要する撤去費等に対する補助（単独浄化槽撤去費 90 千円、配管工事 60 千円）、また、団地等に設置されている共同汚水処理施設の修繕費に対する補助（補助率 1/3）を開始しました。

また、市民団体との連携等により、勢田川七夕大そうじやエコクッキング教室の開催、EM 浄化実験など、生活排水対策の啓発等を行っています。

#### == 生活排水処理の状況 ==

(単位：%)

|        | H20  | H21  | H22  | H23  | H24  | H26<br>目標値 |
|--------|------|------|------|------|------|------------|
| 下水道普及率 | 29.7 | 32.8 | 38.1 | 41.2 | 42.7 | 47.6       |
| 水洗化率   | 42.4 | 48.1 | 50.8 | 54.1 | 56.2 | 61.1       |

下水道普及率：下水道処理区域内の人口 ÷ 伊勢市の人口

水洗化率：(下水道・農業集落排水・合併処理浄化槽の処理人口) ÷ 伊勢市の人口

### 自然とのふれあい

市民団体等と連携しながら、キャンドルナイト伊勢、水生生物調査など、伊勢の自然を感じるイベントの開催を行いました。

また、平成 25 年度には皇學館大学との連携により、伊勢市環境フェアにおいて、自然環境に興味・関心をもつていただくことを目的とした昆虫の展示、生態観察等を行いました。

## (2) 公益的機能の保全

### 《重点事業》

- ・遊休農地の利活用

### 《《 取組み状況 》》

環境保全林において、状況に応じて間伐を実施しました。

また、遊休農地において、地域の農業団体等が行う景観作物の作付への支援や遊休農地を活用した営農を開始するための支援により農地の活用を図るとともに、学校給食における 100% 市内米の米飯給食の推進や地産地消の店の認定( 58 店 H25.10.31 現在 ) などの地産地消の取組みによる農業振興を図り、農地の保全を進めています。

平成 22 年度は、集計方法の変更により、遊休農地の割合が増加しました。

また、平成 23 年度以降、新規発見の遊休農地が増加していること、農業振興地域整備計画の変更( 農用地の除外 ) により農用地面積が減少していることにより、遊休農地の割合は増加傾向にあります。

### == 遊休農地の状況 ==

( 単位 : % )

|        | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H26<br>目標値 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|------------|
| 遊休農地割合 | 3.1 | 3.1 | 3.8 | 4.0 | 4.2 | 1.5        |

遊休農地割合 : 遊休農地総面積 ÷ 農用地総面積

### 3. 歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまち

#### ■■ 概 況 ■■■■

伊勢は、第 62 回神宮式年遷宮により全国から注目を集めており、マスメディアにも多く取り上げられ、平成 25 年においては、10 月末までに約 1,100 万人の観光客が訪れています。伊勢の歴史・文化を発信する絶好の機会であり、まちの美化や景観形成、「おもてなし」文化の向上等の取組みが各主体の連携のもと進められています。他方、多くの観光客が訪れることにより、交通渋滞が発生しており、排気ガスや騒音も含め、観光客と住民にとって大きな問題となっています。

また、犬や猫の飼い方や排泄物の処理、土地・家屋等が十分に管理されていないといった住環境に関する相談等が増加しており、近隣トラブルのほか、衛生面や防犯・防災面等からも対応が求められています。

#### (1) 生活環境の保全

##### 《《 取組み状況 》》

##### まちの美化

住民組織等との連携により、地域清掃や河川清掃などを実施しており、平成 25 年度には、伊勢市環境会議との連携により、お白石持ち行事の開始前週に奉曳コースの早朝清掃を行いました。

##### 住環境の向上

道路交通振動・騒音の測定を行っていますが、一部、環境基準を超える値が測定されています。交通対策として、年末年始等におけるパークアンドバスライドの実施、伊勢市駅手荷物預かり所(平成 25 年 7 月オープン)やレンタサイクル等の環境整備を含めた鉄道利用の P R・利用促進、また、電気自動車等の活用検討等(P3 参照)を開始しています。

##### 空き家対策

伊勢市においても年々増加する空き家の管理に関する相談に対し、任意指導以外の対策方法を構築していくため、平成 25 年度において、自治会と連携し空き家実態調査を行いました。調査結果を庁内の「廃屋・空き家対策検討会」にて検証し、具体的な施策を講じていく予定です。

## (2) 都市環境の保全

### 《《 取組み状況 》》

#### 景観形成

平成 21 年 5 月に「伊勢市景観計画」を策定し、良好な景観の形成を図っています。内宮おはらい町地区・二見町茶屋地区においては、重点地区に指定するとともに建築物の修景に対して補助金を交付する仕組みを設けています。

また、第 62 回神宮式年遷宮により多数の観光客が訪れる中、景観に配慮した施設整備等が、官民ともに行われています。

さらに、市民が公共用地の花壇等に四季折々の植栽を行うことで、花に対する関心を高めてもらうことにより、市民参加の「花のまちづくり」の推進、おもてなし気運の醸成を図っています。

#### バリアフリー、ユニバーサルデザイン

市民が利用する公園等、また、観光客の利用も多い伊勢市駅、宇治山田駅等において、段差解消やトイレのユニバーサルデザイン化、エレベーターの設置などに取り組みました。

また、宿泊施設のバリアフリー化を支援したり、観光案内所で車いすの貸し出しを開始する等、バリアフリー観光の取組みを進めています。

## 4. 協働でつくる、人と環境にやさしいまち

### ■■ 概 況 ■■■■

平成 19 年に、地域の事業者や住民団体等との連携によりスタートした「レジ袋大幅削減のためのマイバック持参運動及びレジ袋有料化」の取組みにおいては、平成 24 年度においても 90%を超える高い辞退率となっており、この取組みが地域に根付いてきたことが感じられます。

また、平成 25 年に行われた「お白石持ち行事」においては、各地域の奉獻団、地域の事業者、団体、行政機関や多数のボランティア等、また、特別神領民をはじめとした来訪者の協力により行われたことから、地域力の高さを確認できます。

環境問題は多岐にわたり、複雑で専門的なものも多いことから、地域力を生かして、専門性を有する機関や地域団体等との連携により、取組みを進めていく必要があります。

#### (1) 環境教育・環境学習の強化

##### 《重点事業》

- ・伊勢の環境についての情報発信、PRの推進

##### 《《 取組み状況 》》

##### 環境教育・環境学習

ごみの出し方等の出前講座の開催やエコドライブ講座の開催、環境フェア等のイベントの開催等により、環境学習の機会創出を行いました。

実施にあたっては、参加の呼び掛けや企画の充実等のため、自治会や事業者、住民団体や教育機関等との連携をはかりました。

##### 小中学校における環境学習

教育環境の充実のため、平成 23 年度には、市立の全小中学校において電力デマンド機を設置し、平成 24 年度からは、各校の創意工夫によるエネルギー環境教育の充実を目的とした活動費支援を開始しました。

また、平成 23 年 9 月 30 日に京セラ株式会社三重伊勢工場及び中部電力株式会社と市において、環境教育に関する協定を締結し、各事業者が有する人材・学習教材を活用した出前授業を実施しています。

## (2) 環境保全活動の推進

### 《《 取組み状況 》》

市では、様々な活動において、事業者等との連携により、取組みを進めています。

#### 伊勢市環境会議（伊勢市まちづくり市民会議 環境分科会）

平成 19 年 2 月に、住民、事業者、団体、行政により設立された「伊勢市まちづくり市民会議」の分科会のひとつである「環境分科会」において、ごみ問題や生活排水対策に関する啓発活動等を実施してきました。

平成 24 年度末に「伊勢市まちづくり市民会議」が解散されたことから、これまでの活動を継続するため、平成 25 年度には「伊勢市環境会議」を設立しました。

#### ＝＝ 主な実施事業 ＝＝＝＝＝

- ・環境フェアの開催（市と共催）
- ・環境出前授業（小学校に呼びかけ、実施）
- ・勢田川七夕大そうじ（勢田川沿岸を一斉清掃）
- ・勢田川浄化実験事業（EMによる浄化実験）
- ・水生生物調査（小学生の体験学習）
- ・エコクッキング教室
- ・ごみゼロ早朝清掃（伊勢市駅前清掃、H25 はお白石持ちの奉曳コースを清掃）
- ・ごみゼロポスターコンクール（小中学校に呼びかけ、実施）

#### ええやんか！マイバック（レジ袋有料化）検討会

平成 19 年に、地域の事業者や住民団体等との連携により「ええやんか！マイバック（レジ袋有料化）検討会」を構成し、レジ袋の有料化をスタートさせました。

レジ袋有料化による収益金については、事業者の理解のもと、環境活動に活用することとしており、環境活動の支援として 14 の団体等に補助金交付するとともに、平成 25 年度には、低炭素で豊かに暮らせる伊勢の実現のため、「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」にコムス 4 台の購入等経費として寄付をしました。

#### 電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会

平成 24 年 8 月より、自動車関連事業者、充電器メーカー、地元経済団体やまちづくり団体等により、電気自動車等を活用した移動手段の新たな使い方を検討し、取組を進めることで「低炭素で豊かに暮らせる伊勢」を創造することを目的として、「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」を三重県の支援を受けて設立し、取組みを進めています。（P3 参照）

#### 環境教育に関する協定

平成 23 年 9 月 30 日に京セラ株式会社三重伊勢工場及び中部電力株式会社と市において、環境教育に関する協定を締結し、各事業者が有する人材・学習教材を活用した出前授業を実施しています。

#### 伊勢市と皇學館大学との連携に関する協定（環境ミーティング）

皇學館大学と市は、文化・教育・学術等の分野で相互に機能向上を図るとともに、地域の活性化と人材の育成を図ることを目的に、平成 20 年 7 月 11 日に連携協定を締結しており、連携協定のスターティングプロジェクトとして、環境ミーティングが位置付けられています。

環境ミーティングは、平成 20 年度に第一回を開催し、平成 24 年度に開催した第 4 回目については、自動車関連事業者に電気自動車等の説明の協力を得て、電気自動車等の普及策等についての意見交換を行いました。

また、平成 25 年度においては、教育学部生物学ゼミ生により、環境フェアにおいて昆虫を題材とした出展をいただくとともに、大学と市の連携についての意見交換を行いました。

#### 三重県地球温暖化防止推進センターとの連携

環境フェアにおける省エネ診断の実施等の協力をいただくとともに、三重県地球温暖化防止推進センターが催す「みえ環境フェア」に伊勢市環境会議等が出展する等、相互連携を行っています。